

小野 あずさ

エジンバラフリンジフェスティバル

先週から出張で、イギリス、スコットランドの首都エジンバラに来ています。エジンバラフリンジフェスティバルでお仕事をさせていただくのは、今回で4回目なのですが、いつ来てもここは新鮮な空気が漂っていて、景色も奇麗で、心が洗われる感じがします。

エジンバラフリンジフェスティバル(以降、フリンジ)は、毎年8月に3～4週間にわたって開催される、世界最大の芸術祭です。フリンジとは、「周辺にあるもの」という意味があり、プロ、アマ、有名、無名問わず、資格審査は全くなく、登録料と参加費を収め、会場を見つけさえすれば、収支の見込みは別にして、誰でも公演できるシステムになっています。この1ヵ月間で、約50カ国から来たパフォーマーやアーティストたちが、約2,700演目を、280劇場で行うという、とても人種の入組んだ芸術祭です。

フリンジのほとんどの演目は公演時間が1時間ですので、観客はスケジュールをうまく組めば、1日に沢山の舞台を鑑賞できます。公演の種類は、主に演劇とコメディですが、ダンスやサーカス、コンサートもたくさん行われています。演劇は、古典から現代の作品まで多岐にわたり、参加資格の選考は一切ないので、ほかのフェスティバルでは受け入れられない前衛的な作品のショーケースとなる場合もあるようです。日本からも、例年、和太鼓や邦楽の団体、クラシック音楽、コメディなど、幅広いジャンルのパフォーマーが数多く参加しています。

今回、私が照明デザインをさせていただいたのは 、日本のフィジカルシアターグループ、DEN Entertainmentの新作品『The Sake』です。 日本の美しい四季をとおして、どのようにお酒が作られていくかの過程を、舞踊、落語、エアリアル、アクロバットなど、盛りだくさんの手法で表現する演目です。
日本の伝統を伝えたいという、日本人の意気込みを理解して、全力で協力してくれるフェスティバルチーム、劇場チームには本当に助けられています。

フリンジの劇場では、同じ会場で1日8～10公演(すべて違う演目)を行う劇場が多く、公演と公演の間の転換は15～20分もらえるのが普通です。しかし、今回私たちが公演をしている劇場(New Town Theatre)では、1日の公演の数は4～5演目、つまり公演の数よりも質を重視した、とてもフリンジでは珍しい劇場です。

先ほども申し上げたように、このフェスティバル期間中は、280もの劇場がエジンバラに出現します。その8割は、普段は劇場としては使われていない、教会、倉庫、体育館、駐車場などの大きなスペースに、仮設舞台と客席を作り、劇場化したものです。ですので、照明、音響含むすべての機材は、レンタル会社から借りて行われます。ロンドン拠点の大きな照明レンタル会社、White Light や Stage Electrics は、何台ものトラックでエジンバラまで機材を運んできます。フェスティバル期間中も常に、劇場で急遽必要になった機材をレンタルしたり、スタッフを投入したりしています。

それぞれの劇場にはベースとして、最低限の照明(大抵、地明かりと前明かりのみ)しか用意されていないので、そのほかで使いたい機材は1ヵ月前に劇場側に支払って、その機材を発注してもらうという形になります。

小屋付きテクニシャンの60～70%はロンドンから来たフリーランサーで 、残りはイギリス各地から来たフリーのテクニシャンです。スコットランドのテクニシャンは今、一番稼ぎの時期なのに、「どこへ行ったのだろう」というくらい見あたりません。おそらく、ロンドンオリンピックの最中にロンドンが混雑するからという理由で、ロンドンから脱出／海外旅行へ行く地元ロンドン住民と同じなのかもしれません。



